

本島の児童を離島に派遣

県内5カ所で体験学習

離島苦、負担の共通認識へ

【那覇】県企画部地域・離島課は10日、本島の児童を離島に派遣して体験学習などを通して離島への理解を深める「離島体験学習促進事業」について、今月26日から28日までの2泊3日の日程で西表島など県内5カ所の離島で実施することを発表した。県内では初の試みとなる。

県が初の試み

同事業は、沖縄の将ト・デメリットについて認識を深めてもらう離島の魅力や重要性、特殊性などのメリックはのコミュニケーション



離島体験学習促進事業について説明する川本課長（右から2人目）10日、県庁記者会見室

ンや人の温かさを実感してもらうことで、本島・離島間の交流促進を図り、地域活性化にもつなげていくのが目的。

今回は試験的なものだが、成果があれば、来年度以降も継続することになっており、本島から約720人の児童が県内18離島へ派遣される予定。

派遣先は西表島と宮古島、久米島、伊江島、伊是名島の5カ所で、那覇市の城東小と泊

小、壺屋小の児童175人が参加する。西表島には壺屋小の5、6年の児童33人が訪れ、サトウキビ収穫や黒糖作り、文化・歴史学習などを通して島のことを学び、地域住民との交流を図る。

同課の川本栄太郎課長は「沖縄21世紀ビジョンでは、離島地域住民の負担を県民全体で支え合う新たな仕組みを構築していくとしているが、現状は本島住民の離島に対しての関心は低い。今回の事

業を通して、子どもたちから、離島への関心を高めることで、島の発展につながって、と説明した。

同事業を実施する地域コンサルティング株式会社・株カルティベイの平井雅取締役協働援部長は「本島の都市にはコミュニケーションをうまくとれない子どもが増えている、離島地域に残っている人と人とのふれ合いを実感してもらいたい」と話した。

八重山毎日
2010.12.12